

戦争をさせない Anti-War Committee of 1000 1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.25

(2015年6月23日号)

〒101-0063東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■6.18 戦争法案反対 国会前連続集会（第5回）

6月18日、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、衆議院本会議で審議されている戦争関連法案の成立阻止をめざし、衆議院第二議員会館前で「戦争法案反対国会前連続集会（第5回）」を開きました。第4回を上回る2000人以上の市民らが参加し、国会に向かって抗議の声を上げました。

集会には、1000人委員会呼びかけ人の瀬戸内寂聴さん（作家・僧侶）が京都から車イスに乗って駆け付け、体調がすぐれないな



瀬戸内寂聴さんが駆け付け2000人を超える参加者が発言に耳を傾けた

か集会に集まった参加者に「戦争法案反対」を命がけで訴えました。また、1000人委員会呼びかけ人の佐高信さん（評論家）も参加し、戦争法案廃案を訴えました。



プラカードを掲げて「戦争法案廃案！」とシュプレヒコール（衆議院第二議員会館前）

社民党の福島みずほ議員は、「憲法99条では、憲法を尊重する義務を総理に課している。憲法の上には総理がいるのではない。憲法に沿って戦争をしない、集団的自衛権を認めないことこそ総理大臣が守るべきことではないか。憲法を守らない総理には一刻も早く退陣してもらおう。戦争は嘘と捏造から始まる。総理は他国と一緒に戦争することを隠して、国民の命と平和を守るとデマを言っている。しかし1人ずつでもいいから安倍内閣を支持しないと決意を固めていけば、あっという間にこの内閣は転んでいく。戦争法案を許さないという声を上げていきましょう」とアピールしました。

また、1000人委員会事務局長の内田雅敏さん（弁護士）は、「72年の政府見解は10月の初めに出されたものだが、すぐ前の9月29日には日中共同声明が発せられている。この声明では、日本は軍事力によらずアジアの一員として平和的に共存をしていくと述べられている。こういう流れの中にあつた72年の政府見解が集団的自衛権など認めているはずがない。

集团的自衛権を容認しても中国の軍拡を進めるだけだ。私たちは72年の政府見解を正確にとらえ、日中共同声明の精神に基づきアジアの民衆と共にアジアの平和を築いていく必要がある。集团的自衛権反対の闘いはアジアにおける共同体を想定する闘いでもある。そういったことを念頭に置きながら、皆さん頑張ってください」と訴えました。



佐高信さん（評論家） この戦争法案を提出しているのは自民党だけではない。公明党という存在がある。公明党は「平和の党」と言っているが、今では全く戦争のための党ではないか。平和を貫いて野党になる勇気はないのか。公明党はまさに「戦争の党」である。自民党以上に公明党の罪が深いということを私たちは確認すべきだ。

瀬戸内寂聴さん（作家・僧侶） 今年で満93歳になった。今日はたくさんの方が集まっているが、私より年上の方はいらっしゃらないのではないかと思います。去年1年病気をして、ほとんど寝たきりだった。完全に治ったわけではないが、最近のこの状態には寝てられないほど私の心を痛めた。病気で死ぬかケガをして死ぬか分からないが、どうせ死ぬならばこちらへ来て、一言でも皆さんにご挨拶をして、「このままでは日本はだめだ。日本は本当に怖いことになっている」ということを申し上げて死にたいと思った。私はどこにも属していないし、ここに来ることを誰にも話していない。ただ自分一人でやってきた。もし私がケガをしたり死んでもあくまでも自己責任だという気持ちで来た。だから怖いものなしです。私は1922年、大正11年の生まれで、戦争の真ただ中に青春を過ごした。前の戦争がいかにかひどくて大変かということを経験して感じている。私は戦争中は北京で暮らし、終戦を北京で迎えた。その時にかに日本人が北京で威張っていたかも見ている。だから負けたと知った時は殺されると思った。しかし、怖々門を開いてみたら、向かいの路地の壁にたくさん赤い練炭が貼ってあり、それに書いてあることは、「悪に迎えるに徳を以てす」という中国の言葉だった。その時に、こういう国と戦争して負けるのは当然だと思った。そして帰国するまで中国人からひどい目に合ったことはない。しかし、日本は本当に中国でひどいことをしていた。そのことを全部見ているので、引き上げの苦労も、ものとも思わなかった。帰って来たら故郷の徳島は焼け野原だった。そこから考えたことは、それまでの教育でこの戦争は天皇陛下のため、日本の将来のため、東洋平和のため、と教えられたが、戦争に良い



戦争は絶対はない。すべて人殺しです。殺さなければ殺される。それは人間の一番悪いことだ。二度と起こしてはならない。

しかし、最近の日本の状況を見ていると、なんだか怖い戦争にどんどん近づいていくような気がする。だから、せめて死ぬ前にここへ来て、皆さんにそういう気持ちを訴えたいと思った。ここに集まった方は私と同じような気持ちだと思うが、その気持ちを他の人たちにも伝えて、特に若い人たちに伝えて、若い人の将来が幸せになるような方向に進んでほしいと思う。



戦争法案反対の声を上げる参加者

■「戦争法案」を葬ろう 6.18 院内集会



戦争法案の成立阻止への決意を述べた近藤昭一議員（立憲フォーラム代表）

立憲フォーラムと戦争をさせない 1000 人委員会は 6 月 11 日、「『戦争法案』を葬ろう 6.18 院内集会」を参議院議員会館で開催しました。

冒頭で辻元清美議員（衆院安保特別委員）が挨拶を行い、「今の焦点は、72 年の政府見解とゾンビのようによみがえってきた砂川判決の二つ。『その日暮らし』ならぬ『その時間暮らし』とでもいうように、委員会がいつどうなるのかわからない状況だ。来週は会期延

長に反対し、戦争法案の廃案を訴えて徹底的に抗戦することになる。その間に世論の声が大きくなることを与党は恐れている。来年の参議院選挙に出馬する地元の議員に直接押しかけて反対の要請をしてほしい」と訴えました。

集会には、立憲フォーラム代表の近藤昭一議員（民主党）ら国会議員も多数参加し、国会審議で戦争法案の成立を阻止するために全力で闘う決意を表明しました。また、憲法学者の小林節さんと 1000 人委員会呼びかけ人で軍事評論家の前田哲男さんが講演し、戦争法案の内容や日米ガイドラインとの関係について詳しい分析を行いました。



小林節さん（憲法学者） 我々は 1 年間も同じ論点を問うてきたが、いまだに政府が反論できていないのは説得する材料をもう持っていないのだろう。ネタのない政権なので論点が絞られてきた。論点をピックアップして再反論していきたい。

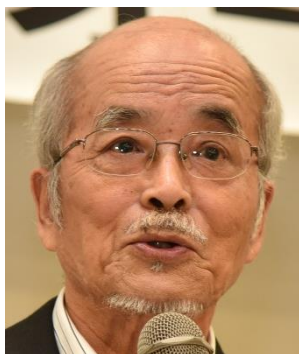
国に必要最小限の自衛権があることは否定しない。しかし自民党は必要最小限と認定されれば何でもできると思っている。自衛隊はもともと警察予備隊として作られたように、軍隊ではなくて警察だ。憲法 9 条 2 項の下では軍隊も交戦権も持てないし、76 条 2 項にあるように自衛隊に軍法会議はない。警察を外へ出せばテロリスト（組織犯罪）

扱われてしまう。これを乗り越えなかったら憲法を改正するしかない。アメリカは日本を二軍だと思っている。彼らの言う事に従えば、世界の警察と称して世界中でドンパチやることになるし、テロの対象にもなる。日本は体を張って金を使ってボロボロになるだろう。では、日本を守るためにどうすればよいか。憲法 9 条を守って専守防衛でいくしかない。南シナ海なども中国・フィリピン・ベトナムの問題であって、日本が口を出す必要はない。こちらは日米安保条約で何千億も払い、200 以上もの基地を提供しているのだから助けてもらえばいい。アメリカは契約国家なので、私は心配していないし、これでバランスも取れていると思う。



戦争法案は違憲だと訴える小林節さん（右）と前田哲男さん（左）

安倍政権は日本の憲法を改正して、世界の軍事国家として君臨したがつている。来年の参院選で3分の2を取らせないようにすることが、憲法改正を止める手段だ。野党には頑張っ
てほしい。



前田哲男さん（軍事評論家） 日米ガイドラインは、4月27日にワシントンでの安全保障協議委員会(2プラス2)で合意された。その直後、安倍首相はアメリカ議会で夏までに安保法案を成就させると演説した。つまり、今回のガイドライン改定で約束したことを実現するために11本の法案を出してきたという構造がある。憲法解釈の変更を縦軸とすれば、ガイドラインによるアメリカの世界戦略への合致が横軸だ。これらのことから、安倍首相がアメリカの太平洋戦略の中に自らを位置づけているということが見て取れる。

また、非常に重大な問題として「後方支援」がある。重要影響事態法の改正案などには「後方支援」とは書いておらず、「協力支援活動」と書いてあるが、自衛隊法改正案には「後方支援」とはっきり書いてある。前のガイドラインでは、「後方地域支援」という軍事用語にはない言葉を造語して、非軍事地帯でしか後方支援はできないと明記していた。ところが今回は「後方支援」という明確な軍事用語を持ち出し、日本の領域外でそれが行使可能であるとはっきり書かれている。「後方支援」は英語で「ロジスティック・サポート」であり、旧陸軍はこれを「兵站」と呼んでいた。つまり戦争と一体のものだ。自衛隊には戦車や壊れた兵器を回収するための後方支援連隊がある。これが専守防衛ではなく領域外の後方支援を行うとなれば、そのために日頃から訓練し備えることになり、海外戦闘向けの編成部隊となってしまう。

もうひとつ、「コンバット・サーチ」（戦闘捜索・救難活動）という言葉がガイドラインにある。これは自衛隊が米軍と共に、あるいは単独で行う活動であるが、この言葉はこれまでのガイドラインにも自衛隊法にもなかった。これが、新法では「捜索救助活動」と訳され、戦闘という言葉が抜けている。このことをもっと問いただしてほしい。安倍さんは戦闘現場には自衛隊を出さないと何度も強調しているが、捜索救助活動には多くの例外が付与されている。例えば、戦闘行為が行われるに至った場合でも、「すでに遭難者が発見され、その救助を開始しているときは継続できる」といった具合だ。これも安保法案がガイドラインに基づいていることの根拠である。ガイドラインは条約に匹敵にするほどの行政協定なので、ガイドラインの側から法案を見ていくという意識が必要になるだろう。

■戦争法案反対 国会前連続座り込み行動（6日目）

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、戦争法案の成立阻止を訴えるため、「戦争法案反対 国会前連続座り込み行動」を6月15日から連続して行っています。6月22日で6日目を迎えた座り込み行動には連日500人以上の参加者が集まり、衆議院議員第二会館前から参議院議員会館前で戦争法案への抗議を続けています。

この行動は10時から17時まで行われ、その間に参加者全員で抗議のシュプレヒコールを上げ、国会議員によるアピールや衆議院安保特別委員会の傍聴報告なども行われています。国会前に集まった参加者は、梅雨空の下、戦争法案の廃案と安倍政権の暴走に怒りの声を上げ続けています（座り込み行動は24日まで行います）。



抗議の座り込み（6月22日、衆議院第二議員会館前）

■みなさんからのメッセージ

- 国民の一人として、戦争のできる国にはしたくない。9条を守ることにあらゆる努力をすることが今やるべきこと。未来のある子どもたちにはせめて自分が育った今のような国の在りようを残したい…と思い、仲間にも声をかけ署名を集めました。少しですが、皆さん賛同して書いてくださいました。何かしなくてはと思いながら、どうしたらいいかわからないというのが皆さんのお気持ちです。全国で一斉に立ち上がる日が来るかもしれませんね。この会があることに感謝します。 (秋田県・女性)

- 「戦争法案」の国会審議で首相の答弁を見たり聞いたりしていると、このような大切な時期に歴史もよく理解していない首相を持つ我々国民の行く末が恐ろしく悲劇的なことです。60年安保の時のような力を我々が持っていないことが残念でなりません。頑張りましょう。



シュプレヒコールを上げる参加者 (6.18国会前連続集会にて)

■集会・活動スケジュール

6月17日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページまたは、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

- 6月 15日(月)～24日(水) 10時00分～17時00分 (20日(土), 21日(日)除く)
戦争法案反対・国会前連続座り込み行動
場 所：衆議院第2議員会館前
※天候により中止・変更等もあり
- 6月 24日(水) 17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 6.24集会
場 所：星陵会館ホール(地下鉄国会議事堂前・永田町下車)
講 師：半田滋さん(東京新聞論説委員・編集委員)ほか
主 催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム
- 6月 24日(水) 18時30分～20時00分 「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」
6.24国会包囲行動
場 所：国会議事堂周辺 ※1000人委員会は議員会館側
- 6月 25日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第6回)
場 所：衆議院第2議員会館前

- 7月 2日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第7回)
場 所:衆議院第2議員会館前
- 7月 9日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第8回)
場 所:衆議院第2議員会館前
- 7月 14日(火) 18時30分～ 戦争法案反対! 7.14日比谷集会(仮称)
場 所:日比谷野外音楽堂
- 7月 16日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第9回)
場 所:衆議院第2議員会館前
- 7月 23日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第10回)
場 所:衆議院第2議員会館前
- 7月 26日(日) 14時00分～15時30分 「とめよう!戦争法案 集まろう!国会へ」
7.26国会包囲行動
場 所:国会議事堂周辺 ※1000人委員会は議員会館側
- 7月 28日(火) 18時30分～ 戦争法案反対! 7.28日比谷集会(仮称)
場 所:日比谷野外音楽堂
- 7月 30日(木) 18時30分～ 戦争法案反対国会前集会(連続行動第11回)
場 所:衆議院第2議員会館前



「とめよう!戦争法案 集まろう!国会へ」ポスター
戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会のポスター:A2判。ご希望枚数お分け致します。送料のみ着払いにてご負担ください。



連続座り込み行動の集会で「戦争法案反対」の声を上げる参加者(6月22日、衆議院第二議員会館前)

「戦争をさせない全国署名2015」第2次締め切り:6月30日

昨年みなさんをお願いしてきた「戦争をさせない全国署名」は、合計257万264筆(追加提出分含む)集まりました。新たに呼びかけている「戦争をさせない全国署名2015」の第2次集約締め切りは6月30日(火)です。第2次集約分は7月中に提出予定です。たくさんの署名をお待ちしております。